

つゆくさ



12月25日、毎年恒例の
サンタクロースの保育所訪問
余裕の子あり、泣く子あり



2015年度 年頭所感

院長 柿木 滋夫



明けましておめでとうございます。職員の皆様におかれましては、ご家族の皆様とともに健やかな佳いお年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、2月にソチ冬季オリンピックでの羽生弓弦選手の金メダル、4月には消費税8%へ増税、6月には世界文化遺産に「富岡製糸場」が認定、8月には広島で土砂災害が発生し74人が死亡、9月には御嶽山噴火で死者57人、行方不明者6人、10月にはノーベル物理学賞に青色LEDを開発した赤崎勇、天野浩、中村修二の3氏が選ばれ、12月に解散総選挙が行われました。このように振り返ると国内において多彩な出来事が多かった一年で、特に自然災害により尊い命が多く失われたように思われます。当院では4月、4年ぶりに整形外科医赴任、6月から患者支援センターが開設し看板を設置、12月には呼吸器病センター開設、外園先生、馬場先生ご成婚などがありました。また、12月1日には小樽市立病院が開院しました。今後各病院は地域完結を目指した医療を各病院の特徴を生かしながら行っていくものと思われまふ。病床機能報告制度も始まり急性期病床を中心とした削減が現実のものとなっていくよう当院としても早急に対応していかなければなりません。

今年4月には新しいMRIが稼働しますし、初期研修医も4名採用となり、各部署にも多くの新人が配置されます。また、5月には病院機能評価再受審が控えています。我が国の政治・経済が混迷を深めており、医療・介護の分野が地域経済に果たす役割はますます大きなものとなってきています。当院は、患者様に寄り添い、良質で心のかよった優しい医療を提供するという理念のもと職員一致団結して地域一番の病院を目指していきたいと思ひます。ご協力よろしくお祈ひします。最後になりますが、新しい年が皆様にとって希望に満ちた明るい年となるよう祈念しつつ、年頭のあいさつとします。

「新年のご挨拶」

事務部長 佐藤 元己



新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎えました。微力ながらもその職務を遂行出来ましたのもひとえに皆様のご協力、お力添えの賜物を心より感謝致しております。

現場での医師看護師をはじめとする人員不足は相変わらずで、医療をとりまく環境は年々厳しさを増してきています。そのような中、当院は地域の皆様に愛される病院を目指してまいりました。それも地域の医療機関から多くの患者様のご紹介を頂きましたゆえのこととあります。厚く御礼申し上げます。本年も地域の皆様の安心・安全に貢献し、地域の発展に微力ながらも寄与させて頂きたいと存じます。皆様におかれましてはご指導ご鞭撻のほどを切にお祈ひ申し上げます。

皆様のご多幸をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。



「年頭のご挨拶」



看護部長 坂本 みよ子



皆様あけましておめでとうございます。

昨年中は皆様には様々な形で助けていただいて、本当に感謝しております。今年も変わらずよろしくお願いいたします。今年が羊年ですが、羊といえば、ふんわりとして、あったかそうで、幸せそうなイメージがありますね。今年はそんな年になるのでしょうか？

従妹から年賀メールが届きました。つれあいと四国お遍路の旅をしているのだそう。

昨年四月から始めてその続き(残り)をしているとか。つれあいなる人物はアメリカ人ですが、「日本」と「仏教」と「歩き」が好きということで二人嬉々として巡っているらしいのです。かくいう私も時間が出来たら必ず巡ろうとひそかに心に決めていたのですが、何か先を越された気分複雑な心境です。しかも従妹は私より15歳も年下なのです。

お遍路さんといえば、総行程1,400Kmもあり、昔は世捨て人の旅として知られた四国八十八ヶ所巡りですが、最近では信仰心だけではなく、健康やストレス解消のため、これからの生き様を探るため等、その目的も多様化しているようです。人間には煩惱が88あり、霊場を八十八ヶ所巡ることによって煩惱が消え、願いがかなうと言われていました。阿波で脚を固め、土佐で心落ち着け、伊予で信に入って、讃岐で諸願成就する、そして最後に、高野山奥の院参拝で大願成就するのだそうです。

ある研究から現代の私たちの抱える生活習慣病などの原因が、私たち個人が抱える煩惱によって生じている情動ストレスにあるということが分かっています。社会学的な意味で、競争心や欲望など、仏教でいう煩惱によって過剰な競争社会が生みだされ、その心身分離のストレスによって人々の心と健康が蝕まれているのだそう。こういうお仕事をしていると生活習慣病については大変興味があり、自身の年代とも重ねて様々なことを考えてしまいます。またある研究によると、単調な仕事に甘んじているより自己裁量の範囲でも企画立案するなど創造的に仕事ができる方が疾病率が少なく健康的なのだと言っています。人間の健康には生き甲斐など自己実現の可能性、いわゆる心の自由度が大きく関与しているようです。

年の初めは「今年はこのような年にしたい」「今年こそはあれをしたい」など多くの方が大願とまではいかなくとも何かしらの希望や願いを胸に抱くのではないのでしょうか？私も四国お遍路の旅はしばしお預けではありますが、上手に自身の煩惱と付き合っ心身の健康を維持できたらよいと思います。毎日何かしらあって、大小さまざまな決断の日々ですが、自己実現の可能性を信じながら、より創造的なお仕事ができるよう進んでいきたいと思ひます。

皆様のお一人おひとりが心身ともに健やかで、年頭に抱いた夢や願いがかないますことを祈念して新年のご挨拶といたします。





呼吸器病センター開設について

近年、難治性呼吸器疾患に対する治療・研究・教育の必要性は著しく増大して来ています。また、その他、睡眠時無呼吸症候群や一部の肺感染症など疾病比率が大きく増加して来ているものも有ります。これらに対する治療法も日進月歩ではありますが、当院では呼吸器科と呼吸器外科が連携し、最新の科学的根拠に基づいて集中的かつ集学的に治療に当たる為、平成 26 年 12 月 15 日より呼吸器病センターを開設致します。

これにより呼吸器疾患の診療科として専門性を高めるだけでなくスタッフ間の連携を円滑にし、これまで以上に難治性呼吸器疾患の皆様からのアクセスを良好にして行きたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

尚、受診を希望される方は呼吸器科にお申し出ください。

呼吸器病センタースタッフ

呼吸器病センター長 丁子 卓(呼吸器科)
副院長 竹藪 公洋(呼吸器科)
佐藤 未来(呼吸器科)
山本 洋平(呼吸器科)
石川 慶大(呼吸器外科)
名誉院長 川村 健(呼吸器外科)

心臓・血管ドックはじまる

循環器科による「心臓・血管ドック」がはじまりました。この検診は日ごろ何かしら心臓に不安を感じていながらも時間が無くてなかなか病院に足が向かない、働き盛り世代が受けられる心臓検診として考えられました。検診を行うのは土曜日、検査項目は脂質や血糖、貧血などの血液検査、胸部写真、心電図、ABI、心エコーなどで循環器の病気を見つけるためのスクリーニング検査を網羅した内容になっています。検査結果は至急で報告され、その日のうちに循環器の先生から説明を受ける事が出来ます。多くの方に受診していただけるように料金は今のところお手ごろ価格の 3000 円に設定されていて、検査内容から比べると非常にお得な内容になっています。年に一度の職場での健康診断では行えない循環器に関する詳しい検査となっています。皆さんの周りで心臓に不安を抱えている人や、動脈硬化していそうな人はいませんか？この機会にぜひこの検診を受けてみてはいかがでしょうか？



臨床検査科 大塚

心臓・血管ドック

心臓・血管の検査後、循環器医師による診察・検査結果の説明まで致します。

「胸が痛くなる事がある」「動悸がする」「息切れが強い」「家族が心臓病で亡くなっている」「胸の不快感があり心配だ」…そんな方は御相談ください。

第 1、3、5 土曜日午前 9 時から(予約制)

料金 3,000 円(税込み)



地域医療福祉連携室 患者支援センター開設

地域医療福祉連携室は平成26年6月1日付けで旧売店跡の場所に移動し、継続看護室と統合、11月1日より「地域福祉医療連携室 患者支援センター」に名称変更しました。

室長の長井医師(循環器部長)を筆頭に、副室長の榊原(師長)、高井(副師長、慢性期疾患看護専門看護師)、小田(副師長)、大崎(皮膚排泄ケア認定看護師)、岡崎(訪問看護師)、野口(訪問准看護師)の6名の看護師と、谷澤(主任MSW)、齊藤(MSW)、佐藤(MSW)の3名の医療ソーシャルワーカーと、事務の青山(パート)の合計11名で構成されています。



今までの地域連携業務(予約、紹介、統計、広報)、相談業務、退院調整業務、訪問看護に加えて、入院

支援業務が加わりました。患者支援センターで入院決定時の患者の情報収集を行う事で、必要な支援が明確になり、在宅療養に向けた他職種での早期介入が可能となりました。

また、今回、退院支援システムがオーダリングに加わり、入院された場合の連携室、医療相談から発信する記録や、病棟からの介入依頼等の情報共有等が可能となりました。現在模索中ではありますが、小樽協会病院の新たな部署として、動き出しております。

ご協力お願い致します！！

(地域医療福祉連携室スタッフ一同)



小樽市立病院の移転に伴い、「市立小樽病院前」の中央バスの停留所が今回のダイヤ改正で「小樽協会病院前」に変更されました。南4の山手線で停車します。しかし、バス停の位置は「夜間急病センター」の真ん前であり、もう少し、協会病院の正面に移動してくれないかなと思う今日この頃です。

MRI が変わります

旧 MRI Intera 1.0T

当院のMRIが新しくなります。1998年4月8日に稼動してすでに16年と10ヶ月。途中大幅な改修もありましたが、延べ42279人の患者様の検査を重ねてここまで長期間使用してきました。

今回導入されるMRIはPHILIPS社製の1.5テスラのものになります。以前のMRIは1.0テスラでしたので磁場強度が少しだけ上がっただけのように思われますが、金属に対する吸着力はかなり強くなり、より危険になります。検査前に行っている問診を、より慎重にお願いいたします。しかし、時代は変わり、以前はペースメーカー装着の患者様は絶対禁忌でした。しかし、最近ではMRI対応のペースメーカーが販売され、当院においてもすでに



新しく稼働するIngenia 1.5T

装着されている患者様がおり、この場合にはMRI検査が可能となります。このように一部問診の内容が変わります。詳しい内容につきましては4月のMRI検査開始までにお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。

再稼動まで、工事の騒音やMRI検査が行えないご不便をおかけしますが、皆様のご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



ひとりで悩んでいませんか？

最近、不眠傾向である。気力や意欲の低下。失敗や悲しみから立ち直れない。相談を受けたが、どのようにアドバイスすればいいか。落ち込んでいる人がいるが、どのように接すればいいか。

当協会では、このたび「こころの相談室」を開設しました。

専門の臨床心理士が、あなたの相談を受けます。

相談時間 第2・4水曜日 PM6:00～PM8:00

相談室専用ダイヤル

011-522-6133

相談室専用Eメール kokoronosoudan@hokushakyo.jp

※**秘密厳守**

(相談内容について、個人情報として扱い職場に知らせることはありません。)

本部 総務・人事課

編集後記

今年は一度に降る雪が多く、除雪も足りずに道幅が狭くなって大変です。また、寒暖の差が激しいため新雪の下が氷でヒヤツとすることも多々あります。何とか怪我をしないようにこの冬を乗り切りたいですね。いよいよ念願のNEW MRIが稼動します。これまでより検査のバリエーションもふえ、さらにきれいな画像になること間違いなしなので、皆様期待してお待ちください (渡辺)

小樽協会病院広報誌“つゆくさ”

NO.46

発行:小樽協会病院編集委員会

発行日:平成27年1月

発行人:柿木 滋夫

編集委員長:渡辺 直輝